



2026年 8月 第787号

教会だより

カトリック甲府教会 月報

〒400-0032 山梨県甲府市中央2-7-10
Tel /Fax 055-237-2531 <http://catholic-kofu.com>
編集・発行 カトリック甲府教会 広報委員会

2026 年 7 月 19 日 年間第 16 主日のミサ説教

カトリック甲府・塩山教会 主任司祭 芹沢博仁



朗読（マタイ 13・44-52）は短い形でいたしましたけれども、「育つままにしておきなさい。麦まで一緒に抜くかもしれないから」と言われています。この主人、この種を撒いた人のことを認めている、受け入れている社会、世界というものを、私たちはどのようなイメージで自分自身が理解していくか。たとえ話ですから、聞く人がそれをどう解釈し、受け取るかということが問われているわけですが、私自身はこの箇所を次のように理解しています。

「アポトーシス」という細胞の自死（プログラムされた細胞死）がありますね。細胞が壊れて死んでしまう壊死（ネクローシス）ではなくて、自ら死んでいく自死ですね。私が最初にこのことを知ったのは、次のような例がありました。人間の手（人間だけではありませんが）は、最初母親のお腹の中にある生まれる前の段階では、最初はグローブや雪の塊のような形をしていて、その中で骨が成長していきます。この指の間に水かきのようなものがあって、この水かき状態にある細胞が、次のために自ら死んでいく。これがアポトーシスです。これによって、指が一本ずつ別々に分かれていきます。

次に知った例ですが、免疫細胞（白血球や T 細胞など）があります。免疫細胞は体の中に入ってきた細菌などと戦って殺す役目を持っています。皆さんも経験があると思いますが、時々この免疫細胞が過剰に働きすぎて、細菌でもない自分の体まで傷つけてしまうことがあります。例をあげると痛風という病気があります。痛風も、この働きが過剰になって普通の細胞を痛めつけ、炎症を起こしてしまう現象です。

病気の話はなくて、この免疫細胞が作られる時は、最初はむやみやたらにたくさん作るのだそうです。やたらと作った中から、自分の体を攻撃してしまうような細胞には「自死しなさい」という信号を出します。そう言われた細胞は自ら消滅し、体の中には通常、自分の体を攻撃しない免疫細胞だけが流れるようになっていきます。

しかし、私たちが一般的に考える時には、「最初からそうした無駄な作り方をしない方がいいのではないか」「最初から体を攻撃しないものだけを作ればもっと効率が良いのではないか」と考えてしまいます。わざわざ考えなくても、「それが普通だ」とどこかで思っている

わけです。なるべく不要なものは作らず、目指しているところを最初から作ればいいのではないかと。

しかし今説明したように、私たちの体や自然界は決してそうではないのです。後から不要なものを取り除く。これが、今日の福音朗読（麦のたとえ）に対する私の受け止め方です。神の国は「途中で何か犠牲があっても構わないから、悪いものを取り除いて良いものだけの世界を最初から作ろう」とは考えていないんだ。それは、最後に選別がなされるもの。

先ほどの手の話ですが、途中で「水かきなんて最初からやめればいいのに」と思うかもしれませんが、そうではなくて、わたしは知ることができませんが、水かき状態に何か意味があるのでしょうか。私たちは最後の「答え」だけを求め続けていると、途中の意味というものをすべて飛ばして考えてしまいます。でもそれは自然なことではなく、神がそれを望んでいるわけでもないのだらうと思います。

私たちは自分たちの社会についても考えてみなければならないと思います。最初から答えや正解だけを求めて、それだけを出そうとする。答えを出すための途中の考え方や、算数・数学で途中で計算間違いをしながら「どうやって答えを出したらいいんだらう」と試行錯誤するプロセスを抜きにして、「で、答えは何ですか？」と結果だけを求めてしまうことが私たちにはあります。

途中の不要なものや無駄を一切なしにして、目指すところにたどり着こうとする。しかし、これは本当に私たちの祈る「主の祈り」とか、「御国（みくに）が来ますように」と祈る世界なのでしょうか。少なくともイエス・キリストの教えは「答えだけの世界」ではありません。それまでの試行錯誤であったとしても、答えに至るプロセス（過程）そのものに価値を見出していく。

私たちは、「天の国は次のように例えられる」という神の国のたとえを、自分の知識や体験を通してどのようにイメージとして持っていくかが大切だらうと思います。わたしのイメージがみなさんにとってどうかわかりませんが、皆さんもぜひご自身のイメージを持ってもらいたいと思います。

私たちが祈る「神の国」は、死んだ後の世界の話だけではありません。「御国が来ますように」「神の国は近づいた」と、この社会の中に私たちは、神の国の到来を求めているのであれば、私たちのイメージする神の国と、現実に関わる社会がどのように繋がり、価値を見つけていくのか。そこがこうしたたとえ話の中で特に大切なことだと思います。

「育つままにしておきなさい。麦まで一緒に抜いてしまうかもしれないから、そして刈り取る時には見つけようと言われる」、そうした流れをぜひ皆さんも「こういうことなのではないか」というイメージとして持って、「御国が来ますように」という神の国の到来のイメージに繋げて、これからも祈りのなかで目指して行ってほしいと思います。

実際、現在の私たちの社会は「多少の犠牲は仕方がない」とする社会です。しかし、多少の犠牲すら出さないようにする世界に至る途中の過程であったとしても、いつも多少の犠牲とされ後回しにされたりするのは、立場が弱い人たちです。時代が変わってもそれは同じなのだと思います。

それは、決して神の国には合わない。むしろ、無視されたり後回しにされる人たちが優先される社会になる、私たちは「御国を願う」ところもあるのですから。ぜひ一緒に、一人ひとりが神の国のイメージをより身近なものとして考え作りながら、一緒に「御国が来ますように」とこれからも祈り、又そのために働いていきたいと思います。（記 広報 今井）



おしらせ



1 敬老の集い

9 月 20 日（日）11：45 ～ サンタルチア講堂にて敬老の集いが行われます。
75 歳以上の対象者には 8 月中にご案内ハガキを送りますので、ご出欠の返信をお願いします。美味しい食事と楽しいアトラクションをご用意しています。

2 帰天のおしらせ

ルカ 田坂 捷雄（たさか かちお）さん（81 歳）が、7 月 14 日（火）に帰天されました。ルカ 田坂さんの在りし日を忍び、永遠の安息をお祈り致しましょう。

3 交わりの会 ミーティング

8 月 2 日（日）11：45 ～ 外国語信徒とのミーティング 行います。外国語グループリーダーと関係者は、ご出席をお願いいたします。

4 聖母の被昇天のミサ

8 月 15 日（土曜日） 聖母の被昇天のミサは、10 時 30 分より行われます。

5 地域福祉委員会

①ベネズエラ地震救援募金を行っています。7 月 5 日（日）～ 8 月 9 日（日）までご協力おねがいたします。

②山梨フードバンクへの食品 6 月 29 日に 92.4Kg の食品を運ぶことができました。ご協力ありがとうございました。



6 教会委員会から

● 外国人向け法律講演会（フィリピンコミュニティと子どもサポート共催）

日時：9 月 6 日（日）15:30～（約 2 時間）

場所：サンタルチア講堂

内容：改正された外国人関係の法律について弁護士が日本語で解説（1 時間）
その後質疑応答（1 時間）。

サポート体制：各グループ（フィリピン、ブラジル、韓国等）のリーダーが同時通訳・サポートを行う。 定員 50 名

● AED（自動体外式除細動器）の設置決定

公共的スペースとしての責任および命の安全を最優先とし、設置を決定。

【お詫びと訂正】『教会だより 7 月号』の帰天お知らせにおいて、お名前のふりがなに誤りがありました。（誤）わかや → （正）わかたに

故人様、ご遺族、関係者、皆様に深くお詫び申し上げ、訂正いたします。（広報委員会）

せいぼ ひしょうてん
聖母マリアの被昇天



マリアが霊魂も肉体もともに天に上げられたという教義で、1950年11月1日に、教皇ピオ十二世（在位 1939～1958）が全世界に向かって、処女聖マリアの被昇天の教義を莊嚴に公布しました。

この教義が制定される以前に、すでに教皇レオ十三世（在位 1878～1903）の命令によって、検邪聖省（現在は教理省）の記録庫に多くの請願が特別に集積され、後には神学者たちの希望も追加されました。また、第一バチカン公会議（1869～1870）において、204名の教父が聖母の被昇天を決定するように提案したことや、1921～1937年に「被昇天の定義促進運動」が盛んになったこと背景もあります。ピオ十二世は次のように宣言します、「われわれの主イエズス・キリストの権威と、使徒聖ペトロと聖パウロの権威、および私の権威により、無原罪の神の母、終生処女であるマリアがその地上の生活を終わった後、肉

身と霊魂とともに天の栄光にあげられたことは、神によって啓示された真理であると宣言し、布告し、定義する」（『カトリック教会文書資料集』3903）。これは「おめでとう、恵まれたかた」（ルカ1・28）と神の使いからのあいさつを受け、神がともにおられるという恵みに満ちたものであるが故に、その生涯においてキリストと最も深く結ばれ、死後においてもキリストの復活と栄光にあずかっていることを意味します。つまりマリアは復活の恵みを受け、キリストを通しての神における人間の完成に到達したことを確信をもって宣言しているのです。

聖書の中で、聖母の被昇天については直接記されていませんが、カトリック教会は何世紀にもわたって伝達されてきた伝承（聖伝）を聖書とともに大切にしてきました。この聖母の被昇天の教義も神から啓示された伝承の一部であることをかつての司教たちが一致して認め、ピオ十二世が公に教会の教義であることを公布することによって、マリアが神の母であることを特に強調したことが考えられます。

この8月15日が聖母マリアの祝日であることについて、歴史的に次のように言われています。5世紀のエルサレムでこの日に祝われていた神の母マリアの記念は、6世紀には、マリアの死去の日として東方教会で祝われるようになりました。この死去は、マリアが天に召された（帰天）ことと永遠のいのちのうちに誕生したこととして記念されていたようです。

やがて7世紀半ばに西方教会にも受け継がれ、教皇セルジオー世（在位 687～701）は、徹夜祭やハドリアヌス教会からサンタ・マリア・マジョーレ教会までの行列などで盛大に祝っています。マリアの被昇天の名で知られるようになったのは、8世紀末になってからです。こうして1950年のピオ十二世の教義宣言に至るまでマリア信心の深まりと同時に、次第にこの日を特別な日として祝うようになりました。

聖母の被昇天への信仰は、マリアだけが特別な存在だと言い表すものではありません。キリストによる救いにあずかる人たちの象徴として、信じるすべての人たちの救いへの希望を表現するものです。ミサの集会祈願はこのことを教えます、「全能永遠の神よ、あなたは、御ひとり子の母、汚れのないおとめマリアを、からだも魂も、ともに天の栄光に上げられました。信じる民がいつも天の国を求め、聖母とともに永遠の喜びに入ることができますように」。

（カトリック中央協議会HPより）

.....

だい やまなし ち く いちりゅうかいだいかい かいさい けってい 第59 回山梨地区一粒会大会の開催が決定いたしました。

2027 年 10 月 11 日（月曜・祝日）

YCC県民文化ホール（小ホール）時間未定（決定次第お知らせいたします）

横浜教区一粒会のあゆみ

横浜教区一粒会は、1942 年、第二代教区長・井手口三代市師の時代に正式に発足しました。設立当時、一粒会に加入したのは 19 小教区でした。第二次世界大戦中、また戦後すぐには、一粒会の活動が大きく発展することはありませんでしたが、1952 年 2 月、第 6 代教区長として着座した荒井勝三郎司教は、一粒会を積極的に推進するように関係者に要請し、1956 年には、その活動は 28 小教区にまで広がりました。また、荒井司教は、以前から提唱していた小神学校設立構想を発表し、併せて、一粒会にその協力を要請しました。その際、司教のもとに司教総代理ほか数名の司祭、数名の信徒で構成される一粒会本部委員会が設立され、また、地区長ほか数名の信徒による地区委員会、主任司祭と数名の信徒による小教区委員会も設けられました。1962 年の小神学校の建物が完成してからも、一粒会は本部委員会を中心とした全教区におよぶ組織を継承し、設立の目的を果たすために活動を続け、現在に至っています。

横浜教区一粒会の目的と活動

1942年に正式に発足した「横浜教区一粒会」は会員の精神的ならび物質的一粒を集結して、横浜教区関係の司祭の召命とその成聖に寄与することを目的として活動している（会則第3条）

（一粒の意味は、司祭の召命が教区民一人ひとりの毎日の祈りと小さな犠牲、献金などに困って実を結ぶことをあらわしている。）

召命は教会全体の、すなわち司教、司祭と共にすべての信者に課せられた勤めである。

私たち信徒が神の救いの業にあずかるために、司教、司祭の導きは欠かせないものである。



今月の教会カレンダー（典礼暦・外国語ミサ・行事等）



8月 2日（日）	ねんかんだい しゅじつ 年間第18主日	10:30 14:00	ミサ えいご 英語ミサ（English）
8月 7日（金）	はつきん 初金	休み	
8月 9日（日）	ねんかんだい しゅじつ 年間第19主日	10:30 15:00	ミサ ポルトガル語ミサ（Português）
8月15日（日）	せいぼ 聖母マリア被昇天	10:30	ミサ
8月16日（日）	ねんかんだい しゅじつ 年間第20主日	10:30 12:30	ミサ かんこくご 韓国語ミサ（한국어）
8月23日（日）	ねんかんだい しゅじつ 年間第21主日	10:30 16:00	ミサ ベトナム語ミサ（tiếng Việt）
8月30日（日）	ねんかんだい しゅじつ 年間第22主日	10:30	こどもミサ
9月 4日（金）	はつきん 初金	休み	
9月 6日（日）	ねんかんだい しゅじつ 年間第23主日	10:30 14:00	ミサ えいご 英語ミサ（English）

※初金のミサは、8月～11月までお休みです。

かくいいんかい について
各委員会の日程

じょせいかい
女性会

8月 2日（日） 11:45 ～ ドミニコの部屋
お休み

かい
きずなの会

てんれいいんかい
典礼委員会

8月 8日（土） 9:30 ～ センターホール

ちいきふくしいんかい
地域福祉委員会

8月16日（日） 11:45 ～ サントルチア講堂

こうほういいんかい
広報委員会

8月30日（日） 9:45 ～ センター事務所